

## 最大4千円超の下げも～主要産地の概算金出揃う

主要産地における令和3年産の概算金・仮渡し価格・買取価格が出揃った。全面的な下落となっており、一部の高級銘柄や早期米は60㌦当たりの前年産比で横ばい～500円安にとどまったが、これ以外の主要銘柄は2,000～3,000円以上の下落となっている。(下表参照)。

新潟魚沼コシヒカリ・新之助は前年産比で据え置き横ばいとなり、青森青天の霹靂・山形つや姫が500円引き下げ、宮崎早期コシ(第3期)が600円の引き下げとなるなど、高級銘柄や早期米の下げ幅は小幅な傾向が見られた。ただし、北海道の基準ゆめぴりかは1,200円引き下げられ下げ幅が比較的大きい。宮城つや姫も引き下げ幅が大きく、前年比3,000円安の設定となった。これ以外の主要な産地銘柄では、北海道ななつぼし・秋田あきたこまち・山形はえぬき・茨城コシ・富山コシ・石川コシ・愛知コシ・滋賀コシ・島根コシが前年産比で2,000～2,300円引き下げられた。先行した新潟一般コシの1,800円引き下げに歩調を合わせるかのような価格設定が見られる。

また青森まっしぐら、宮城ひとめぼれ、福島中通ひとめ・天のつぐ、栃木コシ、埼玉コシ・彩のかがやき、千葉コシ、福井いちほまれなどは3,000円以上の引き下げに。業務用で使用されること多い栃木あさひの夢、千葉ふさおとめ・こまちは4,000円を上回る引き下げが行われている。

3年産は過去最大規模となる最終的に65,000㌦(35万トﾝ相当)の作付け転換が見込まれている。しかし、今年6月末の民間在庫量が前年を19万トﾝ上回る173万トﾝに達したほか、11月以降への2年産古米持越しが40～45万トﾝ規模と見込まれるなど、販売環境に厳しい状況がある。コロナ禍による外出自粛・テレワークの拡大で、家庭用需要は一部拡大しているものの、大きく落ち込んだ業務用需要をカバーするには至っていない。このため各産地とも、集荷価格の大幅な引き下げに踏み切らざるを得なかったとみられる。

令和3年産米の概算金・仮渡し価格・買取価格（JA米、1等、60㍑、円）

産地	品種	価格	前年差	備考
北海道	基準ゆめぴりか	13,500	▲ 1,200	JA概算金
	ななつぼし	11,000	▲ 2,200	JA概算金
青森	まっしぐら	8,000	▲ 3,400	生産者概算金目安
	青天の霹靂	15,100	▲ 500	JA買取価格
岩手	Aひとめぼれ	10,000	▲ 2,300	JA概算金
	銀河のしずく	10,500	▲ 2,300	JA概算金
秋田	あきたこまち	10,600	▲ 2,000	JA概算金
	めんこいな	9,700	▲ 2,000	JA概算金
山形	はえぬき	10,000	▲ 2,200	JA概算金
	つや姫	15,800	▲ 500	JA概算金
宮城	ひとめぼれ	9,500	▲ 3,100	JA概算金
	つや姫	9,600	▲ 3,000	JA概算金
福島	中通コシヒカリ	9,500	▲ 2,600	JA概算金
	中通ひとめぼれ	8,700	▲ 3,200	JA概算金
	天のつぶ	8,500	▲ 3,000	JA概算金
茨城	コシヒカリ	10,200	▲ 2,300	JA概算金
	ひとめぼれ	8,000	▲ 3,000	JA概算金
	コシヒカリ	10,000	▲ 3,000	生産者買取価格
栃木	コシヒカリ	9,000	▲ 3,400	JA概算金
	あさひの夢	7,000	▲ 4,600	JA概算金
埼玉	コシヒカリ	8,300	▲ 3,600	生産者概算金
	彩のかがやき	8,000	▲ 3,600	生産者概算金
千葉	コシヒカリ	8,000-9,000	▲ 3,000-4,000	生産者概算金
	ふさおとめ・あきたこまち	6,600-7,700	▲ 3,600-4,500	生産者概算金
長野	Aコシヒカリ	10,372	▲ 1,980	生産者概算金
新潟	一般コシヒカリ	12,200	▲ 1,800	JA仮渡し価格
	魚沼コシヒカリ	16,500	0	JA仮渡し価格
	新之助	15,200	0	JA仮渡し価格
富山	コシヒカリ	11,000	▲ 2,000	概算金
石川	コシヒカリ	11,200	▲ 2,300	共計概算金
福井	コシヒカリ	10,500	▲ 2,700	生産者向け内金
	いちほまれ	12,000	▲ 3,300	買取価格
三重	一般コシヒカリ	9,300	▲ 3,000	概算金
愛知	コシヒカリ	10,300	▲ 2,300	JA仮渡し価格
滋賀	コシヒカリ	11,500	▲ 2,100	概算金
島根	コシヒカリ	10,600	▲ 2,000	買取価格
高知	南国育ち	11,000	▲ 1,000	概算金
宮崎	早期コシヒカリ3期	12,000	▲ 600	生産者仮渡し価格

（注）①8月下旬～9月上旬現在（税込）、②JA概算金はJAに対する手数料込の支払額、③青森のJA買い取り価格は全農がJAに支払う額、④茨城の生産者買い取り価格は農協の事例、⑤長野はJA長野県安心基準米で包装代込、⑥新潟はJA手数料を含まないJA仮渡し価格で、品種により単協毎独自加算があり、⑦富山三重滋賀はJA手数料を含まない概算金、⑧石川はJA手数料を含む県域共計概算金、⑨愛知はJA手数料を含まないJA仮渡し価格、⑩JA独自加算、時期別設定、品種別設定などにより異なる場合がある。